

◎元旦礼拝聖句 説教題「さあ、向こう岸へ渡ろう～一人を求めて～」（詩篇107篇29, 30節、マルコの福音書4章35～41節） 「主が嵐を鎮められると波は穏やかになった。波が凧いだので彼らは喜んだ。主は彼らをその望む港に導かれた。」（107:29, 30） 「さてその日、夕方になって、イエスは弟子たちに『向こう岸へ渡ろう』と言われた。」（35）

◎ 「一年の計は元旦にあり」とあります。私たちは現状に甘んじやすいのです。しかし、教会の頭であられる主イエス様が「さあ、向こう岸へ渡ろう」と御声をかけてくださっています。行く先は主に任せて、主が行おうとしておられる御業に与る一年間で有りたいものです。

◎詩篇107篇から150篇までは第五卷である。これらの詩篇は、神さまの働きを賛美し、正しい神さまを感謝する。最も多くも優れた詩篇は、神様に感謝して神さまをまげることを神に献することを神に感謝する。この詩篇は、詳しくは、神さまが従順な人生なのだと言ふことだ。忠実な詩篇107篇の主題は、「救済者なる神」です。

◎マルコの福音書4章35節～5章43節の主題は「いろいろな奇跡」です。35節以降はガリラヤ湖で起こった出来事です。ガリラヤ湖は海面下約210メートルの水域で、丘に囲まれている。海の近くで湖の上を吹く風が力が増し、しばしば予告なしに激しい嵐が起きた。弟子の中には熟練した漁師がおり、人生をこの巨大な湖で漁業をしてきたが、おびえの突風の中恐怖に覚えたのです。弟子たちが恐怖におええたのは、嵐が自分たち全員を滅ぼしそうであり、イエス様は何も気づかず関心を持っていないかのように見らです。困難はどの様なものであれ、選択肢は二つある。